第61回
例会

創立25周年記念コンサート

北海道ポーランド文化協会 Concert

2012.5/12（土） 開場 PM 1:00
開演 PM 1:30

札幌コンサートホール Kitara 小ホール
（全席自由 ¥2000 ）

ヨハネス・ブラームス
（1833～1897）
Johannes Brahms

フレデリック・
フランソワ・ショパン
（1810-1849）
Fryderyk
Franciszek
Chopin

カール・タウジヒ
（1841～1871）
Carl Tausig

フランツ・リスト
（1811-1886）
Franz Liszt

ツェーザリ・アントーノヴィチ・
キュイ
（1835～1918）
Цезарь
Антонович Кюи,

テクラ・バダジェフスカ=バラノフスカ
（1834～1861）
Tekla・Bądarzewska-Baranowska

スタニスラフ・モニュシュコ（1819～1872）
Stanislaw Moniuszko

北海道ポーランド文化協会の皆様

演奏部門は、会員の皆様、運営委員の皆様のお力添えを頂き、有意義な演奏会を開催させていただいてきました。今年は創立25周年を記念して、5月12日（土）午後1時半から、Kitara小ホールでの演奏会を予定しています。

今回は、これまでの演奏会の成果と反省から、～ショパンとロマン派の作曲家たち～の副題のもと、演奏曲の幅を広げました。結果、いつもの演奏会より、皆様のお耳に慣れた曲をプログラミングすることができたと思います。また、長くポーランドで研鑽を積まれた**安田文子**さんが加わってくださったことで、札幌では滅多に聞けないタウジヒの作品も演奏予定です。わずか 30 歳で夭折したタウジヒは、リストにも師事したピアニスト・作曲家です。演奏曲は、**松井亜樹**さんがソプラノで演奏されますモニュシュコの作品からの幻想曲であり、キュイはモニュシュコに師事した、という、循環するようなプログラムになりました。このような貴重な楽曲がプログラミングされ、「ポ文協が主催する演奏会の意義」も示すことができたように思っています。

ピアノソロ、二台のピアノ、歌曲、ポーランド語の詩の朗読等、変化に富んだ華やかなプログラムで、皆様には充分にお楽しみいただけるのではないかしら、と自負しております。中島公園の新緑香ります午後のひととき、是非皆様のご来場をお待ち致しております。

薄井豊美（うすい・とよみ＝演奏部会）

主催：北海道ポーランド文化協会
後援：駐日ポーランド共和国大使館・札幌市・札幌市教育委員会・北海道新聞社・日本ショパン協会北海道支部・札幌大学・㈱ヤマハミュージック北海道札幌店・㈱河合楽器製作所北海道営業所
交通：札幌市中央区中島公園1-15 地下鉄「中島公園駅」より徒歩7分・市電「中島公園通」徒歩4分
お問い合わせ先：011-556-8834（安藤）

発　行
北海道ポーランド文化協会
〒001-0032
札幌市北区北32条
西5丁目2-32-902
佐光方
電話・FAX
011-790-8610

POLE

第74号　2012.4.20
北海道ポーランド文化協会会誌

北海道ポーランド
文化協会
創立25周年！

Happy 25th Anniversary !

第60回 例会

POLAND POLAND POLAND　ポーランド映画セレクションII

5月5日(土)～6日(日)10：30～
北大学術交流会館（北8西5・正門入って左）

チェホフスキ監督のドキュメンタリー作品『モルトケ』上映（Cプロ）やワークショップもあります。

Cプロ

コヴァルスキ家の歴史　(60分)

モルトケ　(38分)

映画製作の底力を感じる作品を一挙公開！

--- 去年、好評だったポーランド映画セレクションの
“第2弾”となる上映会 ---

人生の不条理、悲しみ、不正、希望を少年少女や老女の姿を通して描いた、美学派女性監督ドロタ・ケンジェジャフスカの『僕がいない場所』、『木洩れ日の家で』は自信をもってオススメします！

また、日本初公開のドキュメンタリー作品とともにふたりの監督をお迎えし、さらに、5カ国共同記録映画製作プロジェクト「世界の夜明けから夕暮れまで」の中から3作品を上映(3/5～16岩波ホール上映終了)。

ワークショップではポーランドの巨匠の作品を例にチェホフスキ監督が分析・解説。

どうぞ充実のラインナップをお楽しみください！

上映実行委員　氏間多伊子(うじま・たいこ)

第61回 例会

創立25周年記念コンサート

5月12日（土）
開演　PM 1:30（開場 30分前）
札幌コンサートホール　Kitara 小ホール

～ショパンとロマン派の作曲家達～

フレデリック・
フランソワ・ショパン
(1810-1849)
Fryderyk Franciszek
Chopin

演奏部門は、これまで会員の皆様、運営委員の皆様のお力添えを頂き、有意義な演奏会を開催してきました。今年は創立25周年を記念して、上記の日程での開催です。

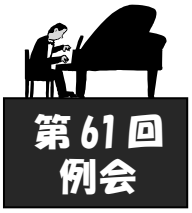
今回は～ショパンとロマン派の作曲家達～の副題のもと、演奏曲の幅を広げました。札幌では滅多に聞けない**タウジヒ**の作品も演奏。わずか30歳で夭折した**タウジヒ**は、**リスト**にも師事したピアニスト・作曲家です。演奏曲は、今回演奏されるタウジヒのピアノ曲は**モニュシュコ**の作品をもとにした幻想曲。また、他に演奏される声楽曲の作曲者**キュイ**は**モニュシュコ**に師事しました。このように、このプログラムには、**タウジヒ、モニュシュコ、キュイ**という互いに関連しあう作曲家の作品が循環するように組み込まれています。

ピアノソロ、二台のピアノ、歌曲、ポーランド語の詩の朗読等、変化に富んだ華やかさで、充分にお楽しみいただけることと思います。

美しい新緑の午後ひととき、ご来場をお待ち致しております。

演奏部会　薄井豊美(うすい・とよみ)

これから繰り広げられるイベントへの参加と広報活動へのご協力とご支持を宜しくお願い致します。なお、上記の例会の＜招待チケット＞を同封いたしましたので、ご確認くださいますようお願い致します。(事務局)



創立25周年
記念コンサート
2012.5/12（土）
開場 PM 1:00
開演 PM 1:30
札幌コンサートホール
Kitaｒａ小ホール

昨年は第 7 回ルーマニア国際音楽コンクールに入賞され、最近では札幌市役所の市民ロビーコンサートに出演するなど、活躍が驚くほど多岐にわたる運営委員の高橋健一郎さん。今回のコンサートへの思いを語っていただきました。

MUSIC ESSAY

創立25周年記念コンサートに向けて

高橋健一郎

初めて私が出演させていただいた北海道ポーランド文化協会の演奏会は、2006年11月の第50回例会「秋の午後のショパンコンサート」でした。ピアノから離れていた長いブランクの期間を経て、またもう一度ピアノと真剣に向き合いたいと思い始めたちょうどその頃に、運営委員の三浦洋先生にコンサート出演のお声をかけていただいたのでした。それ以来、協会の演奏会で演奏するのは今回で5度目になります。

このたび、創立25周年を記念したコンサートにあたって、演奏曲としてふと頭に浮かんだのはショパンのバラード第 1 番でした。まだ小学生だった頃、姉からのおさがりでもらった小さなラジカセで音楽を聴くようになり、その中でサンソン・フランソワの弾くこの曲に出会ったときの衝撃は忘れられません。わびしげな語り、ほとばしる激情、甘美な抒情――実に様々な世界を通過し、しかも華麗な技巧的パッセージに彩られているこの曲に、幼い私はすっかり魅了されてしまったのでした。

その後、数年経ってレッスンで自分で実際にこの曲を演奏することになったときの感激もまた忘れ難いものがあります。そして、そのレッスンは今からちょうど25年前、高校1年生の4月ごろのことでした。その後ピアノからしばらく離れた私は、この曲をステージで弾くこともなく、思い起こすこともほとんどなくなっていましたが、今回協会の 25 周年記念でふと思いつき、演奏させていただくことになったのも、何かの縁かもしれません。「縁」と言えば、そのレッスンをしてくださったピアノの恩師であり、昨年 5 月にお亡くなりになった林靖子先生も生前北海道ポーランド文化協会の会員でいらっしゃり、三浦先生はそこからの連想で私を協会に誘ってくださったそうです。協会の記念すべきコンサートに、このような思い出深い曲で出演させていただけることを心から嬉しく思います。

また、今回はソロの他にソプラノの松井亜樹さんの伴奏でも出演いたしますが、松井さんもまた林先生の生徒でした。生徒たちによる協演をきっと先生も喜んでくださることでしょう。

演奏家というのは、本来まず作曲家が思い描いた音楽をいかによりよく再現するかということに一番に心を砕くものでしょう。しかし、そこに演奏者個人個人のいろいろな経験、思いというものが自然ににじみ出てくるものだとも思います。作曲家と演奏家のそれぞれの個性が一緒になり、そして一つの空間の中で、聴いて下さる方々と共有される、それが演奏会の醍醐味なのかもしれません。

今回出演される他の方々もきっといろいろな思いを抱きながら曲に取り組んでいらっしゃることと思います。私も自分の演奏のとき以外は聴衆の一人ですから、それぞれの演奏者の思いのにじみ出た演奏に触れ、共有することのできるその幸せな瞬間を今から心待ちにしています。

運営委員（たかはし・けんいちろう）

主催：北海道ポーランド文化協会
後援：駐日ポーランド共和国大使館・札幌市・札幌市教育委員会・北海道新聞社・日本ショパン協会北海道支部・札幌大学・㈱ヤマハミュージック北海道札幌店・㈱河合楽器製作所北海道営業所
交通：札幌市中央区中島公園1-15　地下鉄「中島公園駅」より徒歩7分・市電「中島公園通」徒歩4分
お問い合わせ先：011-556-8834（安藤）

終了後のレセプション＆反省会。テラスレストラン Kitara にて。

5月の札幌の市電に乗って

シルヴィア・マリア・オレーヤージュ

2012 年 5 月 12 日、Kitara で北海道ポーランド文化協会設立 25 周年を記念したピアノコンサートが開催されました。マルチン＝ヤンチャレクと私は、このような記念すべきイベントに招待され、ポーランド人作家の著名な詩を聴衆の前で朗読する、という名誉に預かりました。マルチンは、ユリアン＝トヴィムの「鳥のラジオ」を朗読しました。「鳥のラジオ」では、鳥の鳴き声をまねた多くのオノマトペ（擬音語）がありました（トゥトゥトゥ、プロプロプロ、ピョピョピョ、などなど）。

私が朗読した詩についても少し紹介したいと思います。最初の詩は、ユリアン＝トゥヴィムの**「評論家へ」**、二番目の詩は、コンスタンティ＝イルデフォンス＝ガウチンスキの**「トマトソースのサバ」**でした。

「評論家へ」は、単調な人生、ちょっとした事への喜びと、活力を表現しています。このトゥヴィムの詩は、一見単調に見えるワルシャワの市電を思い出させます。私が最初に札幌の市電に乗った時もそうでした。同じ軌道を周期的に走る・・・、でもそこには多くの発見がありました。なんて興味深い体験でしょう！

第二の詩は私の最も好きなものの一つです。今回の Kitara でのコンサートは 5 月 12 日に開かれましたが、5 月 12 日は、ガウチンスキの詩の題材となった、ヨゼフ＝ピウスツキ将軍による 1926 年 5 月ワルシャワ・クーデター勃発の日にあたります。**「トマトソースのサバ」**とは何を意味しているのかご存知ですか？ガウチンスキの詩は 1926 年のクーデターから10年後に書かれました。ガウチンスキは詩の中で、ポーランドの国政に対する深い憂慮を表現していました。「サバ」のラベルが貼られた缶を示している「トマトソースのサバ」は、詩の中で、さほど意味の無いフレーズとして再三出てきます。しかし、このフレーズは、空き缶の中から出ることのできない存在、つまり、当時の政治家たちを風刺したものです。さらに、言葉を超えた非言語的空間を同時に表そうとしています。繰り返される「トマトソースのサバ」には、疑念、後悔、失望、落胆、呪い、など、多くの感情が表現されているのです。

ポーランドの詩は奥が深いですね。このような興味深い詩を朗読する機会を与えてくださった、北海道ポーランド文化協会、特に、佐光さんには大変お世話になりました。ここにお礼申し上げます。

朗読された以下の詩はすべて、佐光伸一事務局長＝**写真左**＝により日本語に翻訳され、プログラムと共に配布された。

- ◆ ユリアン・トゥヴィム
  「批評家に」「鳥のラジオ」
- ◆ コンスタンティ・I・ガウチンスキ
  「トマトソースのサバ」

創立25周年記念 コンサートを終えて

安藤むつみ

北大学長をされた今村成和会長と、その前年にポーランド文化功労勲章を受章されたピアニストの遠藤道子副会長のもとに 1987 年に設立された当協会の創立 25 周年記念コンサートを 2013 年 5 月 12 日土曜日の午後、新緑鮮やかな中島公園内の札幌コンサートホール Kitara 小ホールに於いて開催することができました。

これまでにも遠藤先生を中心に創立 3 周年、10 周年の大きなコンサートが、そして近年には三浦洋さんの解説によるショパンのサロンコンサートなどが会員の演奏によって開催されてきましたが、5 年前の創立 20 周年記念ピアノコンサートからこれまで毎年ほぼ同じ規模での演奏会を皆様に助けられながら続けてこれたことは、当協会が音楽関係の団体ではないことを思うと、他にはあまり例のないことではないかと思われます。こうして 5 年間休まずに演奏会を続けてきたことにより、当協会の存在やポーランドという国の興味またポーランドとショパンの関係などが何人かの人たちにでも知られることになったとしたら、それは意義のあるとても嬉しいことだったと思います。

今回の演奏会は、出来るだけ多くの人に会場に足をお運びいただき楽しんでいただけるようにという思いから、みんながよく知っているけれど演奏会ではほとんど弾かれる機会のない「乙女の祈り」から始まって、何といっても多くの人が大好きなショパンの名曲、また他ではあまり聴くことのできないポーランド語による歌曲やピアノ曲、ポーランド人によるポーランド語の詩の朗読、そして最後に迫力のある 2 台のピアノ曲というプログラムによりそれぞれが精いっぱいの心を込めて演奏いたしましたが、残念ながら、5 年前の 20 周年コンサートの時よりはかなり少ない 261 名の入場者数に終わりました。

それでも「良いプログラムで楽しめたよ」、「ポーランド語の歌が聴けて良かった」「朗読がとてもよかった」「やっぱりショパンの作品って別格だね」「2 台のピアノが美しかった」などのお声をいただくと、これからもよりポーランド文化協会の名にふさわしい演奏会が続いて行って欲しいと思う気持ちになります。それには、演奏会を一般に向けての主催のものとするのであるならば事務局を初めとして、出演者だけでなくいろんな方面からもっと情報なりアイディアなりを出し合っていくべきかと思います。幸いなことに、現在、事務局長の尽力により今まで以上に大使館との親しいつながりも出来て、昨年のコンサートにおいでくださった駐日ポーランド共和国大使館領事ドミニカ・ヤキモヴィチさんに引き続き、今回も大使館から広報文化センター次長のマルタ・カルシさん＝写真下＝がおいでくださり、ステージでのご挨拶という美しい大きな「お花」をいただくことが出来ましたし、またとても強力な会員も増えましたので、出演者も勉強する機会を得ながらポ文協独自の素敵なコンサートに今後ますます発展していけるのではないかと思います。

今回は一週間前に映画会もあったので、運営委員の方々には大変ご負担をおかけいたしました。その上で演奏会当日は早い時間から受付などの仕事をしてくださった方々それから会場に足をお運びいただき演奏を聴いて下さった会員の皆様お一人お一人に心から御礼を申し上げます。

私はこの会を通して札幌で演奏する機会を与えていただけましたで、今は感謝の気持ちで一杯です。

創立 25 周年記念コンサート
～ショパンとロマン派の作曲家達～

日時	2012 年 5 月 12 日（土） 13:30～15:40
場所	札幌コンサートホール Kitara 小ホール
ゲスト	広報文化センターマルタ・カルシ次長
出演者	安藤むつみ、木曽育恵、田口 綾子、松井亜樹、高橋健一郎、本田真紀子、安田文子、シルヴィア・マリア・オレーヤージュ マルチン・ヤンチャレック、上田弥美、薄井豊美、名取百合子、高島真知子
入場者	261 名
料金	2000 円